

日本語

オスマン帝国時代

日付	出来事
1873年4月11日	オスマン帝国を訪問した最初の日本人として、岩倉使節団一等書記官の福地源一郎（1841-1906）と浄土真宗の僧侶である島地黙雷（1838-1911）がイスタンブールに到着。
1875年7月12日	外務卿寺島宗則（1832-1893）が、日本とトルコの外交関係樹立について、太政大臣三条実美に提案を提出。
1878年11月19日	日本の軍艦「清輝」がイスタンブールに寄港。艦長（後の海軍大将）井上良馨が、スルタン・アブデュルハミド2世に謁見。井上艦長と随員3名がメジディエ勲章を授与される。清輝は日本で建造された最初の近代的軍艦。
1881年3月12日	外務省特命全権使節吉田正春（1852-1921）と陸軍大尉古川宣義（1849-1921）を含む使節団がイスタンブールを訪問。スルタン・アブデュルハミド2世に謁見。
1887年9月26日	小松宮彰に親王と妃殿下がイスタンブールを訪問。ゴクス宮殿での歓迎、イルドゥズ宮殿での謁見など、盛大な歓迎を受ける。
1888年5月10日	明治天皇からスルタン・アブデュルハミド2世へ大勲位菊花章授与の書簡が送られる。
1889年1月7日	スルタン・アブデュルハミド2世から明治天皇へオスマン帝国大勲位（ニシヤン・イ・アリ・イムティヤーズ）授与の書簡が送られる。

日付	出来事
1889年5月21日	エルトゥールル号の士官任命。海軍工学校出身の将校たちが任命される。艦長アリ・ベイ指揮下、計609名の乗組員が任命される。
1889年7月14日	エルトゥールル号が启航。横浜までの航路：ポートサイド、スエズ、ジッダ、アデン、ムンバイ、コロンボ、シンガポール、サイゴン、香港、長崎。
1890年6月7日	エルトゥールル号が横浜港に到着。
1890年6月13日	オスマン帝国使節団が明治天皇に謁見。スルタンからの贈り物と勲章を贈呈。
1890年9月16日	エルトゥールル号遭難事故。紀伊大島樫野崎で座礁沈没。527名殉職、69名救助。
1891年1月2日	日本軍艦「比叟」と「金剛」がイスタンブールに到着。生存者を無事母国へ送還。
1891年1月7日	エルトゥールル号犠牲者遺族への援助に関する勅令発布。日本からの義援金に関する報告書提出。
1891年2月	最初のエルトゥールル記念碑が和歌山県串本町に建立。大阪朝日新聞社の寄付により実現。
1891年5月	野田正太郎が日本人初のムスリムとなる。イスラム教に入信し、アブドゥルハリムの名を受ける。
1891年6月13日	野田正太郎がオスマン帝国のメジディエ勲章を授与される。
1891年6月22日	日本全国でエルトゥールル号の殉職者と戦死者のための寄付収集活動が始まる。東京日日新聞と毎日新聞をはじめに複数の新聞は、全国規模の募金活動を開始し、日本人から寄付を集め、その金は銀行を通じてオスマン帝国政府に送られた。また、大阪朝日新聞が集めた寄付金で建設された最初の串本記念碑は、1891年2月に開設された。
1891年6月	士官学校における日本語講座が開講。

日付	出来事
1893年	最初の日本語・トルコ語辞典「語彙集：トルコ語・日本語・フランス語」出版。陸軍士官学校日本語学習係のムスタファ・アスム少尉が編纂。
1893年	日本に関する最初の書籍「日本の過去、現在、未来」出版。著者メフメト・ゼキ。
1893年	イスタンブールに最初の日本商店「中村商店」開店。ベラ通り81番地に開業。
1894年	小松宮依仁親王がイスタンブールを訪問。スルタン・アブデュルハミド2世に謁見。
1894年	ピエール・ロティの「日本紀行」がトルコ語に翻訳出版。訳者M.サフヴェト。

1900年	閑院宮載仁親王がイスタンブールを訪問。スルタンによる2度の謁見と歓迎行事が行われる。
1904年2月8日	日露戦争開戦。サイト・ベルテヴ・ベイ（デミルハン）率いる軍事視察団が日本軍に同行。
1906年2月11日	オスマン帝国軍事視察団満州における日本軍とロシア軍に関する報告書提出。11ヶ月間の観察に基づく詳細な分析。
1907年	日本に関する絵入り書籍「新日本概説」出版。著者メフメト・アリフ。
1909年3月12日	1908年春にイスタンブールを訪問した久邇宮邦彦王に オスマニ勲章が贈られる。
1909年12月2日	オスマン帝国側に相互領事館開設に関する決定。閣議でオスマン帝国と日本の外交関係強化のため、相互に領事館を開設することを決定。
1911年	村岡長太郎大佐がイスタンブールに軍事駐在武官として着任。1913年まで務める。
1914年6月28日	第一次世界大戦勃発。オーストリア皇太子暗殺を契機に欧州各国が戦争に突入。

トルコ共和国時代

日付	出来事
1923年4月23日	トルコ大国民議会が開設。オスマン帝国の占領下で始まった国民解放闘争の重要な出来事の一つとなる。
1923年5月20日	在イスタンブール日本国代表部の移転。スラエルヴィレル
1923年10月29日	トルコ共和国樹立宣言。
1924年2月7日	日本国がローザンヌ条約を批准予定を発表。手続きが完成の場合大国民で最初に批准した国となる。
1924年2月14日	大谷光瑞が東京帝国ホテルでのビジネス会にてトルコ共和国への投資を呼びかける。
1924年5月12日	日本軍事視察団和田中将与随行6名がトルコに到着。
1924年5月15日	日本軍事視察団はトルコ軍を臨検。
1924年5月18日	日本に滞在するトルコ人は一人だと確認。
1924年6月3日	ローザンヌ条約が日本により正式に承認される。これにより日本・トルコ間の外交関係が樹立。
1925年3月23日	在トルコ日本大使館がイスタンブールに開設。
1925年7月7日	トルコ共和国東京大使館が開設。初代大使として代理大使フルシ・フアド・トゥガイ氏が任命される。
1925年11月16日	大阪に日本・トルコ貿易協会が設立。
1925年11月17日	初代在トルコ全権大使として小幡西吉氏(1873-1947)が着任。
1925年	トルコ文学が初めて日本語に翻訳出版。「世界童話大系・トルコ〜ペルシヤ」。トルコの44話を含む。
1926年2月3日	大阪日土貿易協会の開会式。式典に大阪商工会議所会長稲畑勝太郎(1862-1949)、大谷光瑞、山田寅次郎とトルコ代理大使フルシ・フアド氏も参加。
1926年2月18日	日本商品展が3月4日までオープン。
1926年4月26日	大谷光瑞はアンカラにてトルコ政府と投資向けの面談する。
1926年6月15日	日土協会成立。初代会長は元駐トルコ日本国大使内田定槌(1865-1942)になる。
1926年9月6日	日本海軍軍艦「八雲」と「出雲」がトルコ訪問。山本大将与内田大使はムスタファ・ケマル大統領に謁見。山本大將は「我々は太陽の国から月の国まで来ました。」と言う。
1927年4月27日	新トルコ共和国に初の直接外貨投資。大谷光瑞とムスタファ・ケマル大統領合併企業「アンカラ農産業有限会社」を設立。光瑞側は契約に基づき5万トルコリラの投資をする。ガージ農園（現在アタチュルク森農園）に日本人が働き始める。
1929年4月1日	大谷光瑞氏による第二の投資。「ブルサトルコ・日本紡績工場」が稼働する。メモドゥフ・ギョクチェンとの合併企業。
1929年4月5日	串本エルトゥールル記念館に「光瑞碑」が立てられた。
1929年6月3日	昭和天皇の串本エルトゥールル記念館訪問。
1929年10月29日	世界恐慌が始まる。
1930年7月5日	日本で出版された初のトルコ語の書物「現在の日本」が出版。
1930年10月11日	両国間の初の商業条約である「日土通商航海条約」が調印された。
1931年1月11日	高松宮宣仁親王と親王妃喜久子がトルコを訪問。
1931年11月1日	東京日本橋三越にて「トルコの現状」展が開催。
1933年4月22日	在トルコ日本大使吉田伊三郎アンカラで亡くなる。
1933年10月12日	アブデュルシント・イブラヒムは76歳で再び来日する。1944年8月17日に亡くなるまで日本に滞在。多磨霊園ムスリムセクションに埋葬。
1935年12月27日	神宮エヌクが完成！最初のイードのお祈りが行われた

1936年8月24日	トルコ学者大久保幸次(1887-1950)がドルマバフチェ宮殿にてアタチュルク大統領に謁見。
1936年12月22日	ホッスレヴ・ゲレデ氏は在日本全権大使に任命され来日。
1937年6月3日	トルコ共和国が串本エルトゥール記念館に新な記念碑を建立。
1937年8月4日	古賀 峯一海軍大将(1885-1944)の指揮下日本国練習船「岩手」と「八雲」がイスタンブール港に入港。
1937年12月1日	最初の日本・トルコ通商協定が発効。
1938年5月12日	東京にモスク開設。
1942年5月11日	日本政府はトルコ共和国にイランとの仲介役を行うようお願いしトルコ政府はそれを認める。
1945年2月23日	第二次世界大戦で中立国だったトルコは形式上日本に宣戦。両国間の外交関係は1951年9月8日にサンフランシスコ条約から正常化する。
1945年10月24日	トルコが国際連合に加盟。

日付	出来事
1952年5月14日	在日本トルコ大使館が東京に再開設。大使としてイッゼット・アクサルルが着任。
1953年7月 4 日	在トルコ日本大使館が再開。初代大使として新井卓が着任。
1955年	詩人ナーズム・ヒクメットの作品初めて日本語に翻訳され出版される。「愛の伝説〜妻へ獄中より」
1957年	日本・トルコ間のビザ免除協定締結。両国民の相互訪問が容易に。
1958年4月23日	アドナン・メンデレス首相が訪日。日本滞在中、昭和天皇に謁見し、「旭日章」を受章。
1959年4月16日	アンカラに日本・トルコ文化協会設立。両国の文化交流促進を目的とする。
1959年	独立行政法人国際協力機構はトルコに活動開始。
1960年	東京、大阪、名古屋で「トルコ・イスラム美術展」開催。毎日新聞主催で行われた当展は両国文化交流の重要な一歩となる。
1964年10月10日	東京オリンピック開会式。トルコ選手団も参加。
1965年	イスタンブールに日本領事館開設（1972年に総領事館に昇格）。
1967年	日本から初の貿易信用供与。アクス紙工場企画に15,000,000米ドルの信用供与が実施される。
1968年12月22日	東京で「トルコ物産展」開催。JETRO主催による大規模展示会。
1972年3月18日	三菱商事がエティバンク・フェクロクロムプラントの建設企画に信用供与。
1972年	トルコの名歌手アジャ・バツカン、日本でアルバム「愛の思い出」を出す。特に流暢な日本語で歌う「忘れぬ人」が大ヒット。
1974年3月21日	日本の世界的に有名なバレーボールチーム広島とトルコフェデレーションチームがフレンドシップ試合。3－1広島の勝ち。
1977年	名建築家丹下健三(1913-2005)の設計による新トルコ大使館が東京に建設。

日付	出来事
1982年10月18日	日本のバレーボールチーム「ヒタチ」はトルコ訪問中にイスタンブールにてエジザジュバシュと戦い3－0のスコアーで勝。次はイズミールにも寄る予定。
1985年3月19日	イラン在住日本人215名がトルコ航空による脱出オペレーション実施。日本人はトルコ経由帰国。イラン・イラク戦争の影響による緊急避難措置。
1986年5月31日	カマン・カレホユクに於ける発掘調査事業は始まる。式典に三笠宮殿下（1915-2016）も参加され、工事が大村幸弘教授の指揮のもとに開始された。
1986年10月17日	トルコ海外ビジネス関係振興会の元、「日本・トルコ経済協力委員会」設立。
1988年7月3日	第二ボスボラス橋完成。日本の技術協力による大規模インフラプロジェクト。日本の石川島播磨重工業、三菱重工総工費日本鋼管とトルコのSTFA社が協力。
1988年	ボアジチ大学に日本語が選択授業として設立。
1989年11月9日	ベルリンの壁崩壊。冷戦終結の象徴的出来事となる。
1990年7月23日	トヨタ自動車がトルコに進出。サバンジグループとの合併でトヨタ・トルコ設立。
1991年	トルコの名歌手バルシュ・マンチャは日本中で17か所にわたるコンサートツアーを行う。
1993年9月13日	カマン・カレフユクに三笠宮記念庭園が開園。
1993年11月1日	欧州連合（EU）設立。マーストリヒト条約発効により正式に発足。
1994年9月12日	新潟県柏崎市にテーマパーク「トルコ文化村」構築予定が発表。
1994年10月5日	トヨタ自動車トルコ工場が操業開始。
	柏崎トルコ文化村プロジェクトがほぼ完成。トルコの歴史、伝統や料理な

1996年4月10日	どを紹介するテーマパークプロジェクトの工事が終わりに近い。
1996年7月27日	柏崎トルコ文化村がオープン。
1998年11月27日	日本人女優高野あゆみはトルコの映画「なんでもが良くなる」に出演。この日に上映。
1998年	カマン・カレフユクにおける「アナトリア考古学研究所」が設立。オープニングに三笠宮寛仁親王と大村幸弘教授も参加。
1999年3月	JICA「東黒海地域開発計画」支援開始。地域開発における日本の技術協力プロジェクト。
1999年9月17日	アジアとヨーロッパ鉄道で繋ぐ「マルマライ」プロジェクトのファンディングがクリアー。

日付	出来事
2000年6月30日	トルコによる東京モスク再建企画が完成。
2001年3月	JICAによるイスタンブール地震対策支援開始。防災計画策定支援プロジェクト。
2002年2月9日	セドベルグ・ハヌム・ミュージアムのコレクションから選ばれた621点の「トルコの文化遺産展」が開催。当展示会は福岡・岩城・岡崎・静岡などの美術館を寄る。
2002年4月	JICA支援による「チョルフ川流域環境改善計画」開始。
2002年8月	JICAの支援による「ホバ地域探査計画」開始。
2003年	日本における「トルコ年」。
2003年8月2日	「トルコ三大文明展～ヒッタイト帝国・ビザンツ帝国・オスマン帝国」開催。東京都美術館にて200点の収蔵品が展示。
2003年8月	JICAの支援による「東黒海地域観光振興・地方開発計画」開始。
2003年10月12日	イスタンブールにて「日本陶芸～5000年の傑作」展が開催。
2004年8月19日	日本の自動車部品メーカーのトルコ進出。アイシン・トルコ社設立。
2004年	2006年にノーベル文学賞を受ける二年前にトルコ人作家オルハン・パムク氏の小説「私の名は赤」が日本語に翻訳・出版。
2005年1月	エルトゥールル号沈没現場の水中考古学調査開始。
2005年4月1日	アイシン・トルコ自動車部品生産開始。
2005年6月13日	2005年愛知EXPOトルコパビリオンに展示会。トルコ国内の博物館から選ばれた24点の収蔵品が展示された。
2006年5月15日	1985年イラン救出作戦の功労者に感謝状贈呈。
2006年	日本人選手ジュニイチ・イナモトがガラタサライに移籍。2006-07シーズンに30万ユーロの移籍金でガラタサライに加入した守備的ミッドフィルダーのイナモトは、トルコでの唯一のシーズンでスュペル・リグに25試合、チャンピオンズリーグに5試合出場しました。
2007年1月8日	エルトゥールル号考古学調査プロジェクト記者会見。調査団団長ツーフアン・トゥランル氏によるとソナーによる調査の結果、残骸が岸からわずか10～15メートル沖合、深さ11～17メートルの場所にあり、約1平方キロメートルの岩場の海底に広がっていることが判明した。
2007年8月1日	「トプカプ宮殿の財宝－華麗なるオスマン朝展」が日本で開催。トプカプ宮殿博物館所蔵の140点の作品が展示され、最初の会場は東京の東京都美術館でした。展示は9月24日まで公開され、その後10月6日から12月2日まで京都博物館、さらに2007年12月11日から2008年2月11日まで名古屋市博物館で一般公開されました。
2008年1月	エルトゥールル号の残骸に対する集中的な潜水が行われた。串本町の船越岩礁では、エルトゥールル号に関連する多数の遺物が見つかり、体系的な潜水調査が実施された。
2008年5月31日	アナトリア考古学研究所・タフシン・オズギュチ講堂が開館。開館式にはトプタン国会議長と日本からは彬子彬子女王殿下が出席し、JIAAの新しい講堂が正式にお披露目された。研究所の学術活動を支援する目的で建設されたこの講堂には、故タフシン・オズギュチ教授の功績を称えてその名が冠された。
2010年1月4日	トルコにおける「日本年」開始。様々な文化交流イベントが実施。
2010年2月22日	「オスマン帝国の宮殿に吹く日本の風」展が開催。ドルマバフチェ宮殿アートギャラリーで開かれたこの展示会は、6月22日まで公開されました。
2010年5月5日	日本美術の5000年展がトプカプ宮殿にて開催。
2010年7月12日	カマン・カレホフユク考古学博物館が開館。
2010年9月1日	串本町の姉妹都市メルシン市にてエルトゥールル号展。
2010年10月5日	イスタンブールモダン美術館にて「DISCOVER MANGA! 少年ジャンプの世界」展が開催。
2010年10月16日	「三日月と日の丸～山田寅次郎・伊藤忠太・大谷光瑞」展がイスタンブール研究所に開催。
2013年5月3日	安倍晋三首相がアンカラで名言を発表。「私は日本とトルコの国旗を見ていると日本は太陽、トルコは月と星を象徴にしています。一日を思い浮かべたら、月、星、そして太陽のいずれかが欠けていれば、一日を完全に成り立たせることはできません。このように、両国は互いに必要としており、二国間の協力から大きな成果が生まれると信じています。」

2013年9月28日	安倍晋三総理のトルコ訪問。9月30日までの滞在中にエルドアン大統領と会い、マルマライ鉄道の開催式に参加。
2013年9月29日	アジアとヨーロッパ大陸を海底で繋ぐマルマライ鉄道計画が完成。開催式にエルドアン大統領と安倍総理が参加。
2014年2月22日	日本人の友情の証:1985年にイランの首都テヘランに取り残された日本人を救助したトルコ航空のパイロット、故オルハン・スュルジュの追悼式が、串本町にあるエルトゥール殉職者墓地で行われた。
2015年1月15日	串本町における水中考古学調査活動が再開。
2015年6月15日	イスタンブールにジャパニーズアートセンター（芸文館）開設。
2015年11月1日	大阪美術大学にてエルトゥール展が開催。
2015年11月14日	イスタンブール・バルタイマヌ地域に2003年にできた日本庭園が修復され再開。開園式に安倍総理も参加。
2015年12月1日	エルトゥール1890映画の日本公開。とるっ公開は12月25日になる。
2015年	日本人サッカー選手がトルコのクラブチームで活躍。今シーズン、瀬戸貴幸選手がオスマンリスボルに移籍。2015-16シーズンには、オスマンリスボルにてトルコスーパー・リーグで7試合を含む合計9試合に出場。同年、細貝萌選手がブルサスボルにレンタル移籍し、合計25試合に出場した。
2016年5月3日	ArtTurkey Japan (日土展) 2016 展示会が開催。イスタンブールジャパニーズアートセンターの主催で、5月3日から8日まで東京・町田国際版画美術館で開催。「ArtTurkey JAPAN」展は、日本のアート愛好家から注目を集めた。当展には、82名のトルコ人と26名の日本人アーティスト、合計108名の作品128点が出展された。
2016年6月30日	日本のエンジニアリングの成果、オスマンガジ橋が開通した。石川島播磨重工業社（IHI）が実行。
2016年9月1日	東京で「マトラクチ・ナスフ」展が開催。東京渋谷文化センター小和田ギャラリーにて、9月1日から8日まで、オスマン帝国の多才な芸術家マトラクチ・ナスフの作品が展示される。
2017年3月7日	カマンに三笠宮記念財団（PMV）が開設。
2017年6月18日	トルコ・日本科学技術大学が設立。トルコ共和国政府と日本政府の協定に基づき、国立大学として設立された。
2017年7月7日	トルコ初のマンガフェスティバルCOMIKONが開催。
2018年	実力派左サイドバックの長友選手がガラタサライに加入。2017-18シーズン後半に長友をレンタル移籍で迎えたガラタサライは、シーズン終了時に250万ユーロで彼の契約を買い取る。2年間でガラタサライのユニフォームを着て65試合に出場し、3ゴールと7アシストを記録した。
2018年9月5日	Çalıkホールディングが、日本経済団体連合会（経団連）の初のトルコ企業会員となった。
2019年3月20日	トルコ文化年2019～ 「トルコ至宝展～チュエーリップの宮殿 トプカプの美」展が東京国立新美術館で開催。当展で約170点の作品を通して、トルコの歴史、文化、美を愛でる国民性を紹介された。
2019年7月26日	アフメット・チャルック・チャルックホールディングス会長に対する旭日中経章の伝達式がとり行われた。チャルックホールディングス会長のアフメット・チャルック氏が、日本とトルコの経済関係強化への貢献により当勲章を授与された。勲章は在トルコ日本大使の宮島昭夫氏よりチャルック氏に贈呈された。
2019年	日本人サッカー選手の香川がベシクタシュに加入。2019年の冬の移籍市場でベシクタシュにレンタル移籍した香川は、スーパーリーグで14試合に出場し、4ゴールと2アシストを記録残した。
2020年3月11日	世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルスのパンデミックを宣言。
2023年1月26日	ファジル・サイが日本ツアーを開始。世界的に有名な作曲家でピアニストのファジル・サイが、1月から始まる日本ツアーで日本の音楽ファンと再び出会う。当ツアーでは、東京ブルーノート、所沢市民文化センターミュージズ、隅田トリフォニーホール、福岡シンフォニーホールなど名高い会場が巡演地に含まれる。
2023年6月26日	第2世代ハイブリッド・トヨタC-HRの生産が開始。第2世代の充電可能なハイブリッド仕様の新型トヨタC-HRの量産とバッテリー生産ラインの稼働が、式典で祝われた。式典には、TMEの中田佳宏社長をはじめ、多くの幹部が出席した。
2023年8月11日	東京のワタリウム美術館でトルコ共和国建国100周年を記念して「山田寅次郎展～茶人、トルコと日本をつなぐ」又は別名で「寅次郎山田～アブデュルハミト2世のアートディレクター」展が開催された。11月19日まで公開されるこの展覧会は、多くの注目を集めた。
2023年	ブルハン・セネズの小説『イスタンブール、イスタンブール』が日本語に翻訳され、小学館から出版。最近のこの小説を入れて1925年から2024年の間に、トルコ文学から日本語への翻訳は合計52作品になる。
2024年2月12日	「日本デザインの過去と現状～100点の作品展」が開催。当展示会では、2000年以降に作られた約100点の作品のほか、現代日本デザインのルーツを辿ることができる多くの名作も展示された。展覧会は2024年3月3日までペイオール市役所のイスタクラールアートギャラリーで公開される。
2024年11月4日	「日月星展：日本・トルコ外交関係樹立100周年」が開催。当展示会は11月24日までタクシム・アタチュルク文化センターのオペラロビーで公開され、11月30日～12月15日の間イズミルのアドナン・サイゲン文化センターの次に2024年12月21日～2025年1月5日の間アンカラのトルコ・日本財団でも開催された。

